

# 歴史ある加西市の文化の継承と創造「加西市播磨国風土記1300年祭」



能楽師の大槻文蔵さん（左から3人目）らが演じる新作能「針間（はりま）」

「加西市播磨国風土記 1300 年祭」が 5 月 4・5 日、玉丘史跡公園で開催され、約 14,500 人が来場しました。

西村和乎市長は、「加西市が新作能と新作狂言を誕生させるという、地方自治体として日本初の試みとなりました。播磨国風土記ゆかりの地である玉丘古墳の傍らでの上演は、歴史的に意義のあることです」とあいさつ。

『播磨国風土記』に記されているふるさと加西の 1300 年前の物語を、日本最古の完成された舞台芸能である能や狂言によって表現し、加西市の新たな文化として創造しました。哲学者の梅原猛さんをはじめ、日本を代表する文化人の方々が、『播磨国風土記』の地域資源のすばらしさと、それを継承しようとしている市民の取り組みに感銘され、実現したものです。

また、メディアを通して全国にこの取り組みを知っていただく機会となりました。

今後、市民の皆さまの絆をさらに深めて、加西市の伝統文化をはじめ、新たな能・狂言文化を継承し、次の 100 年に向け、その取り組みの輪が時代や地域をこえて、播磨全域に広がるとともに、地域の人々の心に根付き、ふるさと意識の醸成につなげていきます。



狂言師の野村萬斎さん（右から2人目）らが演じる新作狂言「根日女（ねひめ）」



根日女役を演じた加西中1年の大村明日香さん（中央）



華麗に舞う人間国宝で能楽師の梅若玄祥さん



2日間にわたり、舞台上に笛の音を響かせる加西市能・狂言総合プロデューサーの藤田六郎兵衛さん（藤田流十一世宗家 笛方）



会場を訪れた高円宮妃久子さま



梅原猛さんも笑顔で鑑賞（中央）



芝生広場に設置された能舞台会場



天狗の面をつけ、鉦を大きく動かして舞う「龍王舞」



オープニングを飾る加西市吹奏楽団



加西市音楽協会がふるさとの唄をコーラス



室町時代から続き、伝統のある「田遊び・鬼会」



北条高校の放送部員が「ねひめ物語」を朗読



満席となり、盛り上がる会場



子どもたちに大人気のミニ SL (北条鉄道)



標的めがけて、ボールを投げる子ども (加西商工会議所青年部ブース)

### ■ 5月4日

高円宮妃久子さまをお迎えし、加西市の伝統芸能である県無形民俗文化財の住吉神社「龍王舞」と国重要無形民俗文化財の東光寺「田遊び・鬼会」を披露しました。

その後、狂言師の野村萬斎さんが監修・出演した新作狂言「根日女 (ねひめ)」、梅原猛さんが『播磨国風土記』を題材に書き下ろした新作能「針間 (はりま)」を初上演。狂言では、こども狂言塾生 27 人も精一杯演じました。昨年 4 月から約 1 年間稽古に励んだ塾生は、野村萬斎さんらの指導のほか、市民有志で結成された応援隊のサポートにより、公演を迎えることができました。



全国で 5 番目の大きさを持った玉丘古墳の長形石棺を特別公開



市内の各地域で活動されている団体による地域活動 PR ブース

### ■ 5月5日

加西市吹奏楽団の演奏でスタート。キャラクターショーやお笑い芸人ステージで会場は大盛り上がり。加西市歴史街道ボランティアによる公園内の古墳を巡るガイドもありました。また、こども狂言塾の塾生と応援隊のメンバーらが、新作狂言「根日女」を熱演し、全国に誇る狂言を今後も継承していきます。



県立考古博物館による木簡ストラップ作りなどの古代体験型ブース



播磨地域のご当地グルメや加西市の飲食・物販が大盛況



舞台を終えたこども狂言塾の塾生とこどもたちを支えた応援隊のメンバーら